

未来塾ながの新聞 in 韓国

編集・発行：信濃毎日新聞社



県教委の高校生向けキャリア教育「未来塾ながの」で昨年11月17～23日、県内の高校生46人が韓国を訪れました。首都ソウルを中心に、ホームステイや学校訪問などを通して同世代と交流した生徒たち。中信地方の生徒たちが書いた記事を紹介します。

私 たち長野県高校生訪韓研修団は11月18日、鰲頭山(オドゥサン)統一展望台を訪れました。漢江(ハンガン)と臨津江(イムジンガン)という二つの大きな川がこの建物の前を流れ、その向こうに北朝鮮を見ることができ。私たちが訪れた時は天気がよく、対岸にある北朝鮮を肉眼で見ることができた。

「昔は1つの国だったが、分断され、大切な人と離ればなれになってしまった。こうした人々が、うれしいことや悲しいことがあったとき、そして、その人のことを思い出したいときにここを訪れる」。ガイドさんはこう話した。

韓国の人々は自分の周りの人

を大切にすると聞いたことがあったが。それはこうして無理やり離ればなれにされてしまって会いたくても会えないつらさをよく理解しているからなのでは、と私は思った。

この展望台を訪れ、あらためて自分がどれだけ恵まれた環境にいるのか実感した。家族はいつもそばにいるし、大切に思う人は会える距離にいる。そう考えるともっとも自分の周りの人々を大切にしなければならなかった。

日本と韓国は「近くて遠い国」と言われているが、それは北朝鮮と韓国こそ、そうなのだと思います。韓国と北朝鮮の関係がよくなることを願う。

(梅本君香・松本美須々丘高校2年)

近くて遠い国



私 たちは長野県に本社のあるEPSONを訪ねた。EPSONはコピー機やプロジェクターなどさまざまな製品を韓国でも販売している。

訪問ではコピー機のデモンストラーションを見せてもらった。私は印刷の速さと鮮明さに驚いた。日本の誇る技術だと思った。

その後、現地法人社長の鈴木基司さんから話を聞いた。鈴木さんは韓国に来る前は香港にも行ったことがあり、海外で仕事をするやりがいについて、「さまざまな仕事ができる充実感やそ

の国を任される会社からの期待がやりがいだ」と語っていた。

またこれから先、EPSONが必要とする人材は「自分の考えをはっきりと伝え、周りの人を説得できる、チャレンジする、自発的に行動する人」だと言っていた。私はこれを聞いたとき、まさに今回の未来塾の目的であり、日本が必要としている人材ではないかなと思った。

EPSONでは、私たちの目指すべき姿について教えてもらった気がした。

(高木亜由・松本深志高校1年)

海外で働くということ



日 韓の首脳会談は実現できないままで、日韓の不仲は続いている。その原因は、歴史認識や慰安婦問題、領土問題とさまざま。では両国は永遠に不仲なままなのか。私はそうは思わない。

そう思ったのは現地の高校生と交流した経験からである。

今回、高校生とは2回交流した。1回目は韓国の世界文化遺産・水原華城(スウォンファソン)を見学した際にガイドしてくれた梅香(メヒャン)女子情報高校の方々と。二回目は真乾(チンゴン)高校を訪問したときで、授業体験や昼食を共にして多数の高校生と話した。

そのどちらも険悪なムードではなく、最初のうちこそ、よそよそしかったものの、慣れない英語やス

マートフォンの翻訳機能を使ったりしてコミュニケーションを取った。

韓国の高校生には日本の文化やアニメについて聞かれ、日本人の友だちと同じように仲良くなれた。日本のアニメを見ただけで日本語を覚えたという男子高校生の話が特に印象に残っている。

こうした体験から、両国の歴史的問題はあるものの、個人同士が互いの国を尊敬し、また自分の趣味趣向が合う人と交流を続けられ、友好関係を築くことができる。それが広がれば、これまでにないような友好関係を築けるのではないかな。そんな未来を感じることができた。

(粕谷蓮音・穂高商業高校2年)

未来感じた同世代との交流



人と仲良くなるのに必要なこととは何だろうか。私は、少なくとも「たくさんのお話を時間を共にすることが大切だ」と思っていた。しかし今回の訪韓での二つの出来事での考えは変わった。

一つ目は韓国の高校生と触れ合ったことである。地元の高校生に世界遺産を案内してもらったり、高校の授業体験、ホームステイをしたりさせてもらった。

もちろん、日本語が通じる訳ではない。韓国語はほとんどできない。私は不安でたまらなかった。そんなネガティブの渦に巻き込まれていた私だが、いざ交流してみるとそんな気持ちは嘘だったかのように感じるほど、楽しい時間だった。

あちらから積極的に声をかけてもらったし、気遣いもたくさんしてもらった。実質私は、あいさつ程度の韓国語と片言の英語、ジェスチャーでしか会

話できなかったがそれでも心はとても満たされた。そこで気づかされたのは、人とのつながりは言葉だけでできているものではない、心でできているものだという事だった。

もう一つの出来事は訪韓団のみんなと出会ったことである。韓国に行くまで3回しか顔を合わせていなかった私たち。出発の日もあまり打ち解けられていない状態からの緊張したスタートであった。しかも一週間という短い期間。こんなに短い中で…と思っていたが終わった今、短い中でも大親友になれることに気づいた。出会えて本当によかったと思う。

こうした出来事から、仲を深めるのに言葉や時間は関係なかった事に気づいた。今回の経験を生かし、人とのつながりを大切にしながら今後の人生に生かしていきたい。

(林葉月・松本県丘高校1年)

こうしてつながる



私たち研修団は韓国を6日間訪れ、伝統文化や食を堪能してきました。私にとって特に印象深く、心に残ったことをリポートしたいと思います。

11月21、22日の2日間、私たちは真乾高校の生徒の家にホームステイしました。私のホームステイ先の女子生徒はとても社交的で、分からないことがあれば優しく教えてくれました。とてもフレンドリーで、私はすぐになじむことができました。

私は小学5年生から韓国語の勉強をしてきましたが、韓国の方と実際に会話ができて、とてもうれしかったです。ショッピングモールへ連れていってくれたり、私に帽子をプレゼントしてくれたりとてもうれしかったです。さらに、ホームステイ先のご家族の方には、たくさんのお土産や夕食をいただき、本当に素晴らしいおもてなしを受けました。

私はホームステイ先の家族に、日本

のチョコレートやふりかけ、アップルパイのほか、韓国はとても寒い国だからと防寒対策としてカイロをプレゼントしました。家族の方は日本のものをとても喜んでくれ、うれしかったです。韓国のこともとても深く聞くことができました。

1泊2日という短い期間だったけれど、大きな勉強になりました。今は政治的な理由で日韓関係は決して良くなり、韓国の人を悪く思っている人もいますが、直接韓国の人と話をし、一緒に過ごしてみると、その気持ちは変わると思います。

韓国の人たちは何事にも積極的に社交的です。反対に日本の人たちは一人一人に対する言動が丁寧だと感じました。隣国の人間同士、互いの良いところ悪いところを尊重しあえば、これから先良い関係が築けるのではないかと思います。

(木村夢・南安農農業高校2年)

フレンドリーなおもてなし

期待と不安で始まった韓国研修。ようやく慣れてきた5日目、高校訪問とホームステイがありました。

私は、韓国の高校生とコミュニケーションがとれるのか、仲良くなれるのか不安でした。しかし、実際に真乾高校に行くと、明るい雰囲気が印象的でした。

韓国の生徒と初めて話すときはドキドキしましたが、笑顔で話が通じた時は、とてもうれしかったです。

私がホームステイでお世話になった家の生徒は、明るくかわいい人で、日本のアイドル歌手が好きと言っていました。日本人が韓国のアイドルが好きなのと同じだなと思いました。

一緒に屋台グルメも満喫

学校帰りには、よく行くという屋台に連れて行ってもらい、韓国の学生の普通の生活や、トッポギ、ホットクなどの韓国グルメも満喫できました。

お互い、韓国語や日本語、英語、ジェスチャーと、あらゆる方法を使って、それぞれの好きなものや、習慣の違いについて話しました。理解するのに時間はかかりましたが、通じ合えた時は、本当にうれしかったです。

ホームステイ先の家族の方にも温かく迎えていただき、親切にしてもらいました。いろいろな方法でコミュニケーションを取ることができ、感動しました。

(内山葉々子・大町高校2年)

韓国に着いて2日目。私たちはオドゥ山統一展望台へ行きました。この展望台は韓国の北端にあり、北朝鮮を一望できる場所です。北朝鮮を本当に近くに見ることができ、思ってもみない、良い経験になりました。しかし、実際に北朝鮮を目の前にして、「核兵器を持っている可能性のある危険な国がこんな近くにあるなんて」と恐怖感を覚えたのも正直な感想です。

南北統一の願いに触れて

その後、とあるサングラスをかけたおじさんが私たちの前に立ちました。決して流暢ではない英語で「南と北は同じ人々も国も一つになるだろう」と宣言すると拍手がおり、そのおじさんは去っていききました。

緊張の続く韓国と北朝鮮ですが、こうした思いがあれば、南北統一もかなうのかもしれない。そう思える体験でした。

(武田愛美・明科高校1年)





訪 韓研修では、韓国にある日本企業の訪問や、韓国の伝統文化体験など、たくさんのことを学びました。そこで私はあることに気がつきました。韓国人たちはとても明るく、初対面の私たちの前でも遠慮する素振りを一切見せず、一緒にいるといつの間に輪の中に入っていた。そんなことが多々ありました。日本人には、ここまで活発で勢い

隣国同士補いながら

のある人はあまりいませんし、初対面だと恐る恐るといった行動が目立ちます。しかし、どちらかが良く、どちらかが悪いわけではなく、互いに補い合いながら大きなものを目指す。そんなことができると強く感じました。韓国人たちはとても平和的で、なにより日本のことを愛してくれている、ということが分かりました。(武藤壮平・穂高商業高校2年)

私 が今回の訪韓研修で一番印象深かったことは、オドゥサン統一展望台の見学です。韓国からはK-POPや食べ物など多くの文化が日本に伝わっていますが、北朝鮮という国は地図以外では見たことがなく、全く想像が付きませんでした。ここに着いた時、望遠鏡などで覗かなくても北朝鮮が見えたことにとても驚きました。

対岸にあった北朝鮮

南北軍事境界線という言葉をよく聞きますが、漢江という川を挟んでいるだけでした。漢江の一番広い川幅は4.3キロで、この距離だけで両国が休戦していると思うと、とても怖いと感じました。

また、北朝鮮には木のない山がたくさんありました。薪や畑を作るため、そして逃亡をさせないためだそうです。24時間見張られている、同じ人間なのに自分たちとはかけ離れた生活を送っていることにショックを受けまし

た。そして、今までそうした厳しい生活の現実に目を向けずに「北朝鮮」という名前を聞いただけで差別的に見てしまっていた自分自身の愚かさを感じました。

私たちはここで、ベルリンの壁を模した展示物を見ることが出来ました。韓国と北朝鮮のことだけではなく、世界には「ベルリンの壁」のようなものがまだたくさんあると思います。

現在、日韓関係はあまりよくないとよく耳にしますが、今回、韓国の高校生と交流する中では全くそうしたことを感じませんでした。私は、とても優しく自分に接してくれる韓国の方々の姿にとても感動し、その姿を見習いたいと思いました。そのためにまず、自分自身が持つ周りの人々への「このころの壁」をなくしていきたいです。(成田美沙・松本美須ヶ丘高校2年)

研 修団の一員として韓国を訪問した私は、この1週間でたくさんのことを学びました。特に印象に残ったのは、日本大使館で外交官の方々から聞いたお話です。

外交官が話したり、私が実際に見て感じたりした韓国の人々の印象と、一般的な日本人が抱く韓国の人々の印象との間に大きな違いがあったのです。

韓国研修を終えたいま、私の抱く韓国人のイメージは「とても積極的かつ快活」。日本人に対して攻撃的な態度を取るでもなく、とても親切に、自分の使える英語や日本語を最大限に活用して私たちと意思疎通を図ろうとしてくれました。それは学校

訪問やホームステイ、他のいろいろな見学場所でも強く感じたことです。それなのに、日本では韓国に対して悪い印象を持っている人が多い。外交官の方は、インターネットなどで世間に流れる情報をうのみにしてはいけなと話し、「きちんと自分の頭で考え、両国のことを見なければいけない」と語ってくれました。

韓国と日本はこれからも互いに、あらゆる面で協力していかなくてはならない国です。広い視野で互いに接し、知り合い、歩んでいかなければいけないのではないかな。そんな思いを強くしました。

(草間莉那・松本県ヶ丘高校2年)

日韓関係 広い視野で



今 回の韓国研修で私が目標としたのは、韓国語で現地の方と会話することでした。小学生の頃から韓国ドラマを見て、中学生のころから独学で勉強した自分の韓国語の力がどれくらいなのか。確かめてみたかったのです。

現地の高校生と交流する機会は、世界遺産・水原華城の見学と、真乾高校への訪問・ホームステイがありました。その中で最も印象深かったのは、水原華城と一緒に見学した現地の女子高生との交流です。

ひとりひとりに韓国人がついて、ペアで交流するのは、人生初めての経験でとてもわくわくしていました。ペアになったのは一つ上のジユンというきれいなお姉さんで、少しでも日本語を一生懸命にしゃべってくれました。私の中で、韓国の学生はとても積極的でパワフルなイメージがあったのですが、まさにその通りでした。

ジユンとは好きなアーティストが同じだったりして話がとても合って、とても楽しかったです。お互いのことについて、慣れない言語で話すのは大変だったけれど、とても新鮮で自分の言葉が伝わった時のあの感動は忘れられません。一緒にいたのはほんの4時間ほどでしたが、お別れの時には泣いてしまいました。

あの時の涙はお別れがさみしいということだけでなく、ジユンに出会えたこと、自分の言葉が伝わったうれしさ、いろんな自分の収穫があった証拠だと今感じます。

帰国した今もよく連絡を取り合い、またいつか会おうねと約束をしています。それまでにもっと韓国語を勉強したいです。

分がり台えた感動財産に

今は、韓国という国に悪いイメージを持っている人が多いかもしれませんが、それは表面的なことだけであるように思えます。実際韓国に行ってみると、日本人を軽蔑したりする韓国人なんて一切いませんでした。逆に日本人に興味を持ち、いろんな質問をしてくれ、たくさんのおもてなしをしてくれました。

竹島などの政治的な問題で悪いイメージを持っている方もいるかもしれませんが、少なくとも両国の学生はすこし時間と共にすることができます。ですから今回のような研修機会がもっと増えれば将来、日本と韓国が「近くて近い国」になる日も遠くはないかもしれません。

私は今回の研修を財産にし、自分の将来の夢の実現に役立てていきたいと思っています。

(宮坂蘭・松商学園高校1年)





私は韓国研修中、現地の高校で授業を受ける機会があった。教科は美術で缶バッジを作ることになった。

一人で缶バッジのデザインを考えていると韓国の高校生たちが少しずつ話しかけてくれた。私は韓国語がほとんどわからないので答えられないこともあったが、それでも英語や、携帯電話の翻訳アプリを使って少しずつコミュニケーションを取った。

突然、「好きなキャラクターは何?」と

一緒に授業 手探りの会話

聞かれたので、ミッキーマウスが好きだと答えるとミッキーを描いた缶バッジをプレゼントしてくれたのだ。とてもうまく描けていて驚いたし、すごくうれしかった。

今回の交流で、言葉の壁をあらためて実感した。韓国語が分からず、とてももどかしかった。今回交流した高校生たちにいつか会った時、もっとコミュニケーションが取れるように韓国語を勉強していきたい。

(有賀西・松商学園高校1年)



研修5日目、私たちは一人一人違う家庭でホームステイをしました。私はチョ・ヘインさんのお宅を訪問し、家族とともに食事やDVD鑑賞で交流を深めることができました。私がホームステイをして最初に思ったことは、韓国の人は本当に家族思いだということです。リビングはもちろん、個々の部屋、玄関、どこにでも家族全員の写った写真が置いてありました。リビングにいる時も家族全員が楽しそうに会話しているのを見て、韓国の家庭はあったかいと感じました。

家族思いな韓国の人々

また、韓国の人は日本人と比べるととても積極的です。向こうからたくさん話しかけてきます。そのおかげで、お互い、相手の言語が理解できないのかかわらず、英語やジェスチャーでコミュニケーションをとることができました。

しかし伝えきれないこともあったので、帰国したら共用語である英語をもっと勉強して、いろいろな人と楽しく話せるようになりたい、と強く思いました。この経験を将来にもつなげていきたいです。

(宮本芽依・松本県ヶ丘高校2年)

冷たい風が吹き荒れ、凍てつく寒さが厳しい。首都ソウルから約1時間。ここは京畿道坡州市内にある北朝鮮に一番近い展望台、オドゥ山展望台だ。北朝鮮が目と鼻の先、川を挟んですぐ向かいに見える。何の変哲もない静かな場所である。展望室の中から見る北朝鮮は木のない山や廃墟がボツリと建っているだけ。人が住んでいることが不思議に思えてしまう。展示室の説明によると、北朝鮮からわずか460mしか離れていない場所があると知りとても驚いた。

1950年6月25日、北朝鮮からの砲撃で始まった朝鮮戦争によって対立が生まれ、韓国と北朝鮮は分断されてしまった。今は北緯38度線を基にして軍事境界線(休戦ライン)がひかれ、二国間はこの境界線によって暫定的に韓国と北朝鮮に分かれている。二国はいまだ休戦状態のままであり、いつ戦争が起きてもおかしくない状況下に50年以上もおかれている。

しかし、戦争が起きるような緊迫感は微塵にも感じられなく、韓国国内は穏やかで人々もあまり気にしていない感じがした。

韓国は経済発展により豊かな国になったが、北朝鮮は独裁政治が今もなお続き、両国の国内総生産の差は大きく開いた。もともと一つの国だったとは思えないほどに2国はそれぞれ独自に発展した。

展示室には北朝鮮の生活用品や

衣装着展示してあった。小学校の教室を再現したものもあり、北朝鮮の過去の最高指導者二人の写真が飾ってあった。それらはすべてテレビで見たことのあるようなものばかりで、特に驚くことはなかったが、本当にこのような暮らしをしているのかとあらためて思った。

帰りのバスの中、ガイドさんが、韓国人は家族や親族、恋人との結びつきが強いことを話した。それがなぜなのかと疑問にも思っていたが、ガイドさんは「いつ戦争が起きて、家族がバラバラになってもおかしくないから、今家族という時間は本当に貴重。それを意識しているからこそ、韓国では人と人との結びつきが強いのです」と説明してくれた。

実際に北朝鮮と韓国でバラバラになってしまった家族がいることも知った。毎日当たり前に家族がそろって暮らすことは本当に幸せなのだと感じた。

バスの中から鉄条網越しに、向こう岸に見えた北朝鮮は僕の目には何だかとても小さく、そして悲しく映った。

オドゥ山展望台を訪れたことで、北朝鮮を間近に見ることができ、様々な北朝鮮の実情を聞くことができた。南北の再統一を願うこの展望台の望み通り統一されるのは難しいと思う。双方が互いを理解し合い友好で平和的な関係を築ける日はいつ来るのだろう。

(丸山陸・松本深志高校1年)

南北分断 分かれ合える日は…



今回の韓国訪問で、私が一番印象に残っているのは、真乾高校での交流と、ホームステイです。

訪問前の私の韓国へのイメージは決していいものとは言えませんでした。政治的にも対立しているというような日々の報道に接し、私個人も「きっと日本人をよく思っていないだろうな」などと考えていました。

ところが真乾高校では、みなさんが、初対面の我々に笑顔で接してくれ、正直びっくりしました。しまいには、ほかの教室からも人が集まってきて、一緒に記念写真を撮影したりしました。言葉はうまく話せませんでしたが、

気持ちで通じ合うことができるのだと感じました。

ホームステイでも、ホストファミリーの方々がとても温かく、まるで本当の家族のように迎えてくれました。後で知ったのですが、疲れてソファでうたた寝してしまった私に、そっと毛布を掛けてくれたのは、韓国のお母さんだったそうです。

国は違っても、実際に会ってみれば、お互いを理解でき、心の交流ができるのだと学びました。これを機会に、海外へ目を向け、世界中に友達をつくりたいと思いました。

(土岐建仁・白馬高校2年)

心交流 世界中に友達を